

平成28年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年11月5日

上場会社名 コンドーテック株式会社

上場取引所 東

コード番号 7438 URL <http://www.kondotec.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 近藤 勝彦

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理本部長 (氏名) 安藤 朋也

TEL 06-6582-8441

四半期報告書提出予定日 平成27年11月6日

配当支払開始予定日

平成27年11月26日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第2四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第2四半期	24,771	4.5	1,593	△3.7	1,651	△3.4	1,076	8.5
27年3月期第2四半期	23,708	7.1	1,655	12.9	1,708	13.0	992	10.3

(注) 包括利益 28年3月期第2四半期 950百万円 (△2.1%) 27年3月期第2四半期 970百万円 (12.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第2四半期	38.93	38.86
27年3月期第2四半期	35.91	35.87

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第2四半期	33,382		20,912			62.6
27年3月期	35,186		20,231			57.4

(参考) 自己資本 28年3月期第2四半期 20,883百万円 27年3月期 20,208百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	10.00	—	10.00	20.00
28年3月期	—	11.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	11.00	22.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 28年3月期第2四半期末配当金の内訳 株式上場20周年記念配当金1円、普通配当10円
28年3月期期末配当金(予想)の内訳 株式上場20周年記念配当金1円、普通配当10円

3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	51,500	4.7	3,435	4.0	3,537	3.8	2,231	6.3	80.66

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料4ページ「2.サマリー情報(注記事項)」に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	28年3月期2Q	27,957,000 株	27年3月期	27,957,000 株
② 期末自己株式数	28年3月期2Q	287,671 株	27年3月期	293,071 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	28年3月期2Q	27,666,850 株	27年3月期2Q	27,638,385 株

(注)株式付与ESOP信託が保有する当社株式(28年3月期2Q:82,900株、27年3月期:82,900株)を期末自己株式数に含めて記載しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外ですが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項につきましては、添付資料3ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(4) 追加情報	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、経済・金融政策などの効果を背景に、企業収益や雇用情勢の改善が進み、設備投資に持ち直しの動きがみられるなど、緩やかな回復基調が続きましたが、一方で、円安による原材料価格の上昇や中国経済の急激な減速懸念などもあり、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

当社グループ関連業界におきましては、公共工事は減少が続き、地域経済の景況感を悪化させる要因となっており、また、人手不足等による工事の着工時期や進捗の遅れなどの懸念材料も依然として残っているなど、徐々に停滞感を強めながら厳しい状況で推移しております。

このような状況のもとで、当社は自社製品の拡販、新規販売先の開拓や休眠客の掘り起こしなどの営業活動を展開するとともに、産業資材、鉄構資材、電設資材においてユーザーのニーズを的確にとらえ、付加価値の高い製品の開発と商品調達機能をさらに強化し、連結子会社との事業拡大を図ってまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は24,771百万円(前年同期比4.5%増)と増収になりました。

利益面につきましては、販売費及び一般管理費では電設資材で前期にて貸倒引当金の戻し入れ51百万円、上場20周年の特別賞与21百万円などの特殊要因が影響し、営業利益は1,593百万円(同3.7%減)、経常利益は1,651百万円(同3.4%減)となりました。なお、法人税等合計の減少があり親会社株主に帰属する四半期純利益は1,076百万円(同8.5%増)と増益になりました。

当第2四半期連結累計期間におけるセグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

<産業資材>

土木関連の工事が減少し、地域によっては公共工事の減少の影響が出始めており、加えて人手不足等による工事の着工時期や進捗の遅れなどにより停滞感を強めていく状況ではありますが、除染工事や都市部での再開発事業の需要を取り込み、ブルーシートやコンテナバッグ、現場用品などの売上が堅調に推移した結果、当セグメントの売上高は14,766百万円(前年同期比2.1%増)、セグメント利益は975百万円(同9.0%減)となりました。

<鉄構資材>

物流倉庫や商業施設などの大型低層物件、耐震改修工事などの需要は堅調で、鉄骨建築の需要の回復に伴い鉄骨加工業者の工場稼働率も高水準を維持しており、鉄骨部材やアンカーボルトの売上が伸展した結果、当セグメントの売上高は5,822百万円(前年同期比4.3%増)、セグメント利益は483百万円(同0.6%増)となりました。

<電設資材>

民間の建築、設備投資に持ち直しの動きがみられ、太陽光発電設備や工場・商業施設向けLED照明、空調設備等省エネ関連商材が好調に推移した結果、当セグメントの売上高は4,182百万円(前年同期比14.1%増)となりました。利益面につきましては、競合他社との受注競争により売上総利益率は0.4ポイント低下し、また、販売費及び一般管理費では前期にて貸倒引当金の戻し入れが51百万円あったため、セグメント利益は141百万円(同5.4%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末(35,186百万円)と比較して1,803百万円減少し、33,382百万円となりました。これは、現金及び預金並びにたな卸資産の減少等を主因として、流動資産が1,892百万円減少したこと等によります。

負債合計は、前連結会計年度末(14,954百万円)と比較して2,484百万円減少し、12,469百万円となりました。これは、電子記録債務の期日前弁済を行ったことによる仕入債務の減少等を主因として、流動負債が2,430百万円減少したこと等によります。

純資産合計は、前連結会計年度末(20,231百万円)と比較して681百万円増加し、20,912百万円となりました。これは、剰余金の配当277百万円の支払いによる減少があったものの、親会社株主に帰属する四半期純利益1,076百万円による増加があったこと等によります。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末(57.4%)比、5.2ポイント改善し62.6%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末（7,626百万円）と比較して1,218百万円減少し、6,408百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における営業活動の結果、406百万円の資金を使用しました（前年同期に獲得した資金（523百万円））。

これは、税金等調整前四半期純利益の計上1,655百万円、減価償却費の計上196百万円及びたな卸資産の減少677百万円等により資金を獲得した一方で、電子記録債務の期日前弁済を行ったことによる仕入債務の減少2,224百万円及び法人税等の支払い570百万円等により資金を使用したことによります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における投資活動の結果、389百万円の資金を使用しました（前年同期に獲得した資金（236百万円））。

これは、有形固定資産の取得373百万円等により資金を使用したことによります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における財務活動の結果、377百万円の資金を使用しました（前年同期に使用した資金（450百万円））。

これは、短期借入金の純減少額100百万円及び配当金の支払い277百万円等に資金を使用したことによります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年3月期の業績予想におきましては、平成27年5月8日の「平成27年3月期 決算短信」の発表時に公表した業績予想から変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（企業結合に関する会計基準等の適用）

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。）及び「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

これによる損益に与える影響はありません。

（4）追加情報

（株式付与E S O P信託）

①取引の概要

当社は、平成25年8月13日開催の取締役会において、当社の中長期的な企業価値を高めることを目的として、従業員インセンティブ・プラン「株式付与E S O P信託」導入を決議しており、平成25年9月10日付で自己株式125千株について、「三菱UFJ信託銀行株式会社（株式付与E S O P信託口）」に対して、第三者割当による自己株式の処分を実施しております。

②信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する会計処理

「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第30号 平成27年3月26日）第20項を適用し、従来採用していた方法を継続しております。

③信託が保有する自社の株式に関する事項

信託が保有する当社株式の信託における帳簿価額は、前連結会計年度36,428千円、当第2四半期連結会計期間36,428千円で、株主資本において自己株式として計上しております。また、当該株式の期末株式数は、前連結会計年度82千株、当第2四半期連結累計期間82千株、期中平均株式数は、前第2四半期連結累計期間108千株、当第2四半期連結累計期間82千株であり、1株当たり情報の算出上、控除する自己株式に含めております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,626,480	6,408,362
受取手形及び売掛金	12,683,855	12,531,542
電子記録債権	508,914	594,881
商品及び製品	3,403,052	2,733,664
仕掛品	174,223	172,792
原材料及び貯蔵品	338,351	331,888
その他	654,522	719,001
貸倒引当金	△13,103	△8,246
流動資産合計	25,376,299	23,483,886
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,184,125	2,281,674
土地	5,847,891	5,965,591
その他(純額)	911,157	843,799
有形固定資産合計	8,943,173	9,091,065
無形固定資産		
その他	60,795	58,638
無形固定資産合計	60,795	58,638
投資その他の資産		
その他	871,142	824,498
貸倒引当金	△65,284	△75,301
投資その他の資産合計	805,858	749,197
固定資産合計	9,809,826	9,898,900
資産合計	35,186,125	33,382,787

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,567,387	2,922,361
電子記録債務	4,199,422	5,751,600
短期借入金	630,000	530,000
未払法人税等	588,897	585,564
賞与引当金	486,537	483,500
販売促進引当金	—	26,500
その他	3,055,061	797,400
流動負債合計	13,527,306	11,096,926
固定負債		
役員退職慰労引当金	44,453	—
退職給付に係る負債	1,125,032	1,077,768
その他	257,790	295,205
固定負債合計	1,427,276	1,372,973
負債合計	14,954,583	12,469,900
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,666,485	2,666,485
資本剰余金	2,434,555	2,435,170
利益剰余金	16,321,830	17,121,362
自己株式	△128,810	△126,436
株主資本合計	21,294,060	22,096,581
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	288,810	232,995
繰延ヘッジ損益	3,248	△7,324
土地再評価差額金	△1,520,229	△1,520,229
為替換算調整勘定	50,103	6,579
退職給付に係る調整累計額	92,242	75,224
その他の包括利益累計額合計	△1,085,824	△1,212,755
新株予約権	23,306	29,060
非支配株主持分	0	0
純資産合計	20,231,542	20,912,886
負債純資産合計	35,186,125	33,382,787

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	23,708,719	24,771,958
売上原価	18,628,215	19,586,369
売上総利益	5,080,503	5,185,588
販売費及び一般管理費	3,425,197	3,592,112
営業利益	1,655,306	1,593,475
営業外収益		
受取利息	7,162	1,478
受取配当金	7,099	1,462
仕入割引	63,800	71,611
雑収入	11,734	17,379
営業外収益合計	89,796	91,932
営業外費用		
売上割引	29,424	27,428
支払利息	979	893
雑損失	5,758	5,403
営業外費用合計	36,163	33,726
経常利益	1,708,939	1,651,682
特別利益		
固定資産売却益	1,157	3,694
負ののれん発生益	809	—
特別利益合計	1,966	3,694
特別損失		
固定資産売却損	1,661	—
固定資産除却損	430	224
特別損失合計	2,091	224
税金等調整前四半期純利益	1,708,813	1,655,152
法人税、住民税及び事業税	621,808	555,239
法人税等調整額	94,466	22,913
法人税等合計	716,274	578,152
四半期純利益	992,538	1,076,999
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	992,538	1,076,999

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
四半期純利益	992,538	1,076,999
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△54,862	△55,814
繰延ヘッジ損益	25,292	△10,572
為替換算調整勘定	17,078	△43,524
退職給付に係る調整額	△9,139	△17,018
その他の包括利益合計	△21,629	△126,930
四半期包括利益	970,909	950,069
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	970,909	950,069
非支配株主に係る四半期包括利益	0	△0

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,708,813	1,655,152
減価償却費	217,213	196,067
のれん償却額	57,647	—
負ののれん発生益	△809	—
株式報酬費用	6,682	7,447
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△76,034	5,160
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△126,148	△2,902
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△35,332	△72,328
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	4,669	△44,453
受取利息及び受取配当金	△14,261	△2,941
支払利息	979	893
固定資産売却損益 (△は益)	504	△3,694
固定資産除却損	430	224
売上債権の増減額 (△は増加)	568,525	56,019
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△489,013	677,278
仕入債務の増減額 (△は減少)	△545,068	△2,224,265
未払消費税等の増減額 (△は減少)	84,320	△123,521
未払費用の増減額 (△は減少)	△8,792	11,796
その他	△2,251	25,874
小計	1,352,074	161,808
利息及び配当金の受取額	12,265	2,941
利息の支払額	△948	△877
法人税等の支払額	△840,276	△570,590
営業活動によるキャッシュ・フロー	523,115	△406,717
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△378,606	△373,109
子会社株式の取得による支出	△7,214	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△79,247	—
信託受益権の取得による支出	△1,357,921	—
信託受益権の償還による収入	2,073,449	—
その他	△14,289	△16,759
投資活動によるキャッシュ・フロー	236,170	△389,869
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△200,000	△100,000
自己株式の取得による支出	△78	—
自己株式の売却による収入	—	5
配当金の支払額	△249,593	△277,621
その他	△1,060	141
財務活動によるキャッシュ・フロー	△450,732	△377,475
現金及び現金同等物に係る換算差額	15,776	△44,056
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	324,329	△1,218,118
現金及び現金同等物の期首残高	5,636,547	7,626,480
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	14,712	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,975,588	6,408,362

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額(注2)
	産業資材	鉄構資材	電設資材	計		
売上高						
(1)外部顧客への売上高	14,458,417	5,583,728	3,666,573	23,708,719	—	23,708,719
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	127,085	43,039	18,617	188,742	△188,742	—
計	14,585,502	5,626,767	3,685,191	23,897,462	△188,742	23,708,719
セグメント利益又は損失(△)	1,071,706	480,513	149,527	1,701,747	△46,441	1,655,306

(注)1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△46,441千円には、のれんの償却額△57,647千円が含まれております。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額(注)
	産業資材	鉄構資材	電設資材	計		
売上高						
(1)外部顧客への売上高	14,766,610	5,822,945	4,182,402	24,771,958	—	24,771,958
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	192,217	47,940	33,409	273,567	△273,567	—
計	14,958,827	5,870,886	4,215,811	25,045,525	△273,567	24,771,958
セグメント利益又は損失(△)	975,634	483,336	141,381	1,600,351	△6,876	1,593,475

(注) セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。